
魔法と異能

バーダック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法と異能

【Nコード】

N6483Y

【作者名】

バーダック

【あらすじ】

ここは魔法が当たり前に使える世界

魔法とは違う力を持った異能者 真堂リンクは姉と妹 相棒のユウデルフとともに 平和な学園生活を送っていた

あらすじ

ここは 魔法が当たり前に使える世界

魔法とは違う力を持った異能者 真堂リンクは 姉と妹 相棒のユウ デルフとともに 魔法学園で平和な学園生活を送っていた
だが、今日の朝はいつもと違っていた

何と 魔法学園エース・オブ・エースの異名を持つ三人の魔法少女達がリンクに話し掛けてきた

これには、リンク達も学園の皆さんもびっくり!!!

そして、この日から リンクの平和で穏やかな日々が壊れはじめる
目立つ事が嫌いなリンク

三人を避けるが 何やら 昔助けくれたお礼がしたいとかで 事あるごとに話し掛けてくる

へたれなリンクは 強く言うこともできなくて そのまま どんどん目立ってしまう

どうする リンク!!!

紹介 裏設定（前書き）

オリキャラ紹介

紹介 裏設定

真堂リンク（17）

高校三年生

魔導ランク：近・遠距離ともに最低のF

異能力：霊力 後は不明

属性：全属性

武器：剣 その他多数

主人公

六年前に真堂家の養子として迎え入れられた

そのため 血の繋がりは無い

性格は お人好し

容姿は 金髪でなかなかの二枚目のだが、言動や行動から三枚目故にもてない

しかし、普段はふざけてるような感じだがその実 心やさしく家族、仲間想いで 熱いものを秘めてる熱血漢

その事を知っている家族や仲間からは、男女とわずモテモテ……でも 気付いてない………というか 幼少期に問題がある

あまり目立つのは好きじゃない………が………周りの人達がかなり目立つため必然的にリンクも目立つ

影で活躍する影のヒーロータイプに憧れている

ユウ（不明）

妖怪：猫又

魔導ランク：なし

異能力：妖力

属性：風

武器：爪・牙

相棒

猫又の妖怪でリンクの相棒 普段はリンクの使い魔を偽り 共に行動している

強い妖力を持ち並の人間にも見える

家族は全員 妖怪で喋れる事を知っている

性格は 主にツツコミ担当の常識人 身内には心を開いている

容姿は 真っ白い毛にデコに三本の縦線 両目の下から顎にかけて一本ずつ黒い縦線があるのが特徴

後は、猫又らしく尻尾が二つに裂けているが妖力で一本に見えるようにしている

過去 生まれついで強過ぎる妖力に里の者達から殺されかけるというブロリー現象を引き起こした

リンクとの出会いは、リンクが七歳の時 怪我をしているユウを助けた

妖力を解放すると白虎のような姿になり、体も大きくなる

口癖は 「やれやれニヤ」

デルフ（不明）

剣に宿る神

魔導ランク：近・遠距離EX

異能力：神力

属性：無

武器：剣・弓

ヒロインその1

リンクの持つマスターブレードに宿る神様 普段は人間体になり、
使い魔を偽りリンクに憑き従っている

性格は 世話好きなお姉さん たまにトチ狂ってリンクに女装させ
ちやうお茶目な人 リンクに幾つものトラウマを植え付けた人
かわいい物好き

容姿は 金髪で後ろ髪を腰ぐらいにまでのばしている美少女で 綺
麗なお姉さまタイプ

リンクとの出会いは、ユウと同時期ぐらい

とある神殿の台座に刺さっていた剣を引き抜いたのがきっかけ

七歳のリンクに一目惚れした強者 その後 どんどん想いを募らせている

そろそろ (性的に) 食べてしまおうと考えている

力は この物語中トップクラスのチート

真堂 マイ(15)

高校一年生

魔導ランク：近距離 A 遠距離 A A

異能力：なし

属性：風・闇

武器：杖

ヒロインその2

真堂家四女 リンクの事は「お兄ちゃん」と呼ぶ

姉たちは 「お姉ちゃん」

性格は 少しマイペースな小悪魔

容姿は 金髪で後ろ髪を首筋ぐらいまで伸ばしており 毛先が外に跳ねている かわいい女の子タイプ

中学一年くらいから魔力が急激に成長 あと体も成長 そのため
その事をよく思わない連中から悪い噂を流されたり、嫌がらせを
されたりしたため クラスで孤立し 中学時代は結構荒れていた（
今では黒歴史）

当初 リンクの事は優しく面白いお兄ちゃん程度にしか見ていなか
ったが その時 自分のワガママに付き合ってくれたり 最後まで
味方をしてくれた事で好意を抱くようになる
更に 事件を解決してくれた事で 今はもうデレデレ状態 積極的
にアプローチをしまくってる

………リンク 爆発しろ!!!
でも、告白は恥ずかしくてできないらしい
………リンクはぜろ!!!

ちなみに、力は抑えている

真堂 オトメ（17）

高校二年生

魔導ランク：近距離 AA+ 遠距離 A+

異能力：なし

属性：光・雷

武器：先がぐにやりと曲がっている杖

ヒロインその3

真堂家三女

リンクの事は「兄さん」

姉たちの事は「姉さん」

性格は 物静かで口数が少ない

容姿は 栗色の髪に後ろ髪を背中くらいまで伸ばしている やっ

ぱり毛先が外に跳ねているが 他の姉妹よりマシ

目付きが少し鋭いツンデレ きつめの表情から 綺麗な女の子タイプ

友達をあまり作らず 少数での行動を好むが家族といるときは、全

員一緒にいらしい

努力家で少々負けず嫌いなところがある

自分の本質を見抜き、認めてくれたリンクに好意を抱いているが

素直になれず ついキツイ事を言ってしまうことがある

そのため リンクからは 嫌われてると思われる

真堂 マナ（17）

高校二年生

魔導ランク：近距離 A 遠距離 A A A

異能力：なし

属性：炎・闇

武器：杖

ヒロインその4

真堂家次女

オトメの双子の姉

リンクの事は「お兄様」

姉の事は「お姉様」

性格は 明るく少し軽め

容姿は オトメの髪の色を金髪にしてさらに 毛先が外に跳ねている
目つきは オトメよりくりっとしている

その性格の明るさから アイドル的かわいい女の子タイプ

リンクになついており、よくリンクに付いていく
好意を自覚してない……がリンクが他の女の子と話しているのを見ると嫌な気分になるらしい

学園の人気者

よく告白されるが断っている

真堂 セイ（18）

高校四年生

魔導ランク：近距離 B 遠距離SS

異能力：なし

属性：水・光

武器：杖

真堂家長女

全員の事は呼び捨て

性格は 物静かで落ち着いている クーデレ

容姿は 銀髪に後ろ髪を背中くらいまで伸ばしている 一番毛先が外に跳ねている

落ち着いた大人っぽい雰囲気を持つ 気品溢れるお姉様タイプ

父は出稼ぎ 母は死去

そのため 姉兼母親がわりとして妹達の面倒を見てきた

リンク達が来て 一番救われた人で リンク達には内心感謝している
リンクの言動や行動の裏に隠された気遣いをいち早く気付いた

リンクに好意を抱いているが隠している
が……家族にはバレバレ

力は 真堂四姉妹1だが 近距離は苦手

因みに真堂家は（リンク以外）全員人気者

……リンク……お前は泣いていい

ヤマタノ龍

リンクの中に眠る八竜

元ネタは劣化

妖怪化

元ネタは某妖怪の総大将の孫

闘神化

ま、魔族大覚醒か……………

その他多数

紹介 裏設定（後書き）

オリキャラはこれから どんどん増えていきます

朝の出来事

朝の布団

それは 誰しも経験する至福の時

朝というのは春夏秋冬寒いもの

夏は肌寒く冬は地獄

しかし その寒さと布団の暖かさがミラクルマッチしているため
非常に心地いい

……はずであった……

「……………重い」

だが 今回は違った

そう 重いのである それから 物凄く暑い

……俺の上に何かが乗っている

俺は 急いで布団を持ち上げ 視線を下に向けた

……そこには……

「うーん……………あっ！ おはようー お兄ちゃん？」

……………妹がいた

「……………呪怨のワンシーンを思い出した……………」

あの布団の中に引きずり込まれる奴

……………あれはトラウマだ 今でも 夜思い出して 布団の中を見

てしまう……………

「朝 起きて、女の子が添い寝してるのに掛ける言葉がそれなの」

!？」

「これの何処が添い寝だ！ 添い寝っていうのはなあ 朝起きて 女の子が横に、しかも 自分の腕に抱き付いていることを言うんだよ！！ その際に 太股も絡めてくれるとなお良い！！！」

男の子の永遠の憧れだ！！！！

「ええ〜 それだと ありきたり過ぎない？」

「いいんだよ ありきたりで！！！」

「むう〜 朝起きたら 女の子が上に乗ってる方が喜ぶと思ったのに……………」

「喜ぶか！！！」

朝起きたら マウントを取られてるなんて 恐怖だよ ……

「ていうか 早く俺の上からどきなさい」

お前が 上に乗ってるせいで、汗だくだよ せっかくの至福が台無しだよチキショウ！！

「……………嬉しくないの？」

「当たり前だ！ つうか 添い寝だったとしても嬉しくないな 妹だし……………」

何処の世界に 妹に添い寝されて喜ぶ兄がいるんだよ ましてや この状況 添い寝でもないし……………

「逆に困るといつか……心配になるな……将来が……」

「あははは？ もう お兄ちゃんたら 冗談ばっかし」
急に 可笑しそうに笑いだすマイ
な、何だ？ 突然？怖いぞ……

「本当は 物凄く興奮してるんでしょ？」

「あん！？ してねえよ」

家族相手に興奮なんかするか……！

「だって さつきから 当たってるもん？ 硬いのが？」

「今すぎに 俺の上からどけい……！」

「ええゝ やだゝ？」

くっ……！ この野郎……！完全に面白がってやがる……！！

兄貴をもて遊ぶとは許せん……！！

ちよつと からかつてやる

「おいおい 退かないと後悔するぞ？」

俺だって男だからなゝ」

俺は少しいやらしい笑みをマイに向けた

男の子は野獣なんだぞ

そのことを 思い知れ……！！

「うん？ 知ってるよ（^- -^） だから してるんだもん」

「………OK 分かった 俺の負けだ だから 俺の上から退

「いてくれ」

よく考えたら 俺に勝ち目なんてない
やっちゃったら俺の責任だしね？

……………くそ 何て体をはった嫌がらせをしやがるんだ このドSめ
！！！

「……………ねえ お兄ちゃん……………」

俺がそんな事を考えているとマイが 俺の目の前まで這ってきた
顔が若干赤く 目もトロンとしており 心なしか少し妖艶に見える

「な、何だ？」

急にそんな目で見つめられ 不覚にもドキッとしてしまっ
な、何だ？ この胸の高鳴りは……………

「恋人同士って 朝からキスとかするのかな？」

……………ああ なるほど……………警戒音か……………

「恋人なんかいたことないから知らん！！！」

彼女いない歴18年ですけど何か！？
こいつ その事を知っている筈なのに
やっぱり 俺をからかったやがるな！！！！

「そんな事 お前の方が知ってるだろ！？ モテモテだもんな！！」

マイだけじゃない 基本的に俺以外は全員モテまくってる
くそ リア充撲滅しろ!!!

「えっ!? 私も知らないよ!? 恋人何て作ったことないもん」

はい 出ました!! 作ったことない発言

いたことない、じゃなくて作ったことないだもんな!! 「いつでも
作れるけど今はいらない」って 言いたいんだろ!?
リア充 滅亡しろ!!!

「……………だって 私には お兄ちゃんがいるから……………恋人何てい
らないノノノ」

マイは顔を真赤にして目を逸らした

「……………マイ」

「お兄ちゃんノノノ」

「お前は俺の敵だ!!!」

「ええー!!!???」

恋人何ていららない!? ふざける!!!

高校生活は恋人を作って何歩たる!!!

恋人と一緒に弁当食べたり!!! はい あーんとかしあったり!
!!!

一緒に帰ったり!!!

腕を組むのは当たり前!!! 文化祭とかは一緒に回ったり!!!

そんな 学園生活を思い描く時期だろうが!!!

高校生にもなつて恋人一人もいないだけでネタにされるんだぞ!!!
「お前も 早く良い奴見つける(笑)」とか「お前 何で恋人作らないの(笑)」とか!!!うるさい黙れ死ね!!!!!! 作れたら苦勞しねえんだよ!!!!!!」

「お兄ちゃん どうしたの!?何で 号泣してるの!?!」

「はっ!!!!(;)!!!」

い、イカン ちょっとトんでた

「と、とにかく 恋人いない何て 俺の敵だ!!!!」

恋人何て作らなくても充実してるってか!?このリア充が!!!後悔しろ!!! 社会人になって後悔して涙しろ!!!

「こ、恋人はいらないわけじゃないよ.....ただ.....」

「.....ただ?」

「誰でも いいってわけじゃないし.....」

「.....」

おのれ 贅沢な!!!っと言いたいところだが.....むう それは確かに.....

「まあ お前なら良い奴見つけれらるだろ?.....いや 見つけてくれた方がいいのか?」

.....さっきは色々思っちゃったけど 家族みんなが恋人を見つけ

てくれた方が俺にとってはいいかもしれない

だって 男女とわずモテモテの人達と一つ屋根の下で暮らしてるんだぜ 俺

それだけで、全校生徒からの殺気が半端じゃない

「見つけてくれた方がいいって……お兄ちゃんはそれでいいの？」

「だって みんな怖いんだぜ？ いつか殺されそうだ」

「むうー お兄ちゃんのバカ……！」

バチーン……！！

「へぶう……！！??？」

マウントからの強烈なビンタの後 マイは俺の部屋を飛び出した

ぐっ……！ おのれ やはりマウントを利用してきたか……しかも

有無を言わさぬヒット&アウェイとは……我が妹ながらやりおる

……

朝の出来事（後書き）

主に オリキャラ（？）達が中心です

朝の出来事2

「もう！お兄ちゃんのバカバカ！！ せっかく 勇気をだしたのに！！！」

マイは 自分の部屋に戻ると すぐに布団に包まった

「ふんだ！！ お兄ちゃんなんか！お兄ちゃんなんか！！！」
マイは目に涙を溜めながら目を閉じ……………そのままふて寝してしまった

（リンクサイド）

「いてて マイの奴……………」

俺は叩かれた頬を擦りながら、着替えるためにシャツごと上着を豪快に脱いだ それからタンスを開け着替えを探す

「朝からうるさいですよ…兄さん」

すると眠気眼を擦りながら可愛いパジャマ姿のオトメが部屋に入ってきた

「うお！？ こら 勝手に人の部屋に入るとは何事か！！」

「……………入ってませんけど？」

…………… あっ 本当だ……………

よく見るとオトメは部屋の外にいる

ていうか ちゃんと閉めていけよ マイ！

「……………迷惑ですから 開けっ放しで着替えしないで下さい」

……………そういえば 俺 上半身裸なんだった

「きゃあー!! えっちいー!!」

なので 服で体を隠しながらお約束のセリフを言ってみる

「……………」

ボタン!!!

だが 俺のボケを全力でスルーし オトメは部屋のドアを閉めた

「……………」

……………俺は あのゴミを見るような目を生涯忘れる事はないだろう

……………

くオトメサイドく

……………はあ〜 ビックリしました……………

まさか 上半身裸だなんて……………

何とか 平静を装えましたが……………うう 顔が熱い……………それ
にしても、少し冷たくし過ぎたかもしれせん……………

せめて ツツコミをいれてあげるべきでした……………

多分 兄さんはショックを受けて固まってるでしょうから、今なら
まだ間に合います

「あれ〜 オトメちゃん どうしたの？ パジャマ姿で」
「っ！〜!?…………… マナ姉さん……………」

「…………… 大丈夫？ 何だか顔が赤いよ……………」

…………… やはり赤くなっていましたか……………

「な、何でもありません」

私は詮索を入れられる前に急いで自分の部屋に入った

…………… はあ〜 何だかバカみたいですね……………

私はため息を吐き…………… 二度寝する事にした……………

〜マナサイド〜

「どうしたんだろう？…………… もしかして……………」

なんとなく〜くだけど私はお兄様の仕業のような気がしてお兄様の部屋に向かった

〜リンクサイド〜

「…………… 着替えるか」

オトメに無視され少しだけ時がとまっていたが 気を取り直して着替える事にした

「お兄様〜 入るよ〜」

いきなりドアが開いたかとおもうと言いながらマナが入ってきた

「こらあ！！！！ ちゃんとノックしろと何度も言ってるだろうが！！」

逆だったら大変な事になってるからな！！ 俺が！！！！
ていうか、何度も何度も うちの家族は言っても全然聞いてくれない

夜 保健体育の参考書を読む時 俺がどれだけビクビクしてるか貴様等にはわかるまい！！！！

「って お兄様 何で裸なの！？」

マナは 顔を真赤にしながら両手で目をおおった

……………指の間からチラチラ見てるけど……………

「見てしまったか……………ならば早急にお金を要求しなければいけませんねえ」

「えっ！？ お金！？」

「ええ 着替えをのぞかれ 俺の心を著しく傷付きました
慰謝料五万円を請求する」

「ええー！！ そんなお金持ってないよお……………」

俺のむちゃくちゃな言い分に驚愕するマナ

ふむ 相変わらず良い反応をしてくれるなあ どうかの誰かも見習って欲しいくらいだ

お前の事だよ！！オトメ！！！！

「へっくち！！！！……………誰か私の噂をしますね……………」

「そうですか 持っていないませんか……………ならば仕方ない 体で払ってもらおうしかありませんなあ」

俺は手をワキワキさせながら マナに近づく

「ひっ!?!」

俺のいやらしい目つきと手つきにマナは怯えた様子で後ろに後ずさる

「さあ 覚悟するが良い!?!」

「ま、待って!! お兄様!! ご、ごめんなさい 今度からはちゃんとノックするからあ!?!」

「そういってお前は 一体何回ごまかしたあ!?! お仕置きだべえ!?!?!?!」

コチヨコチヨコチヨコチヨ

「あは、あはははははは!?!や、やめ……………ま、……………し、死ぬ!?! 死んじゃう!?!?!?!」

バタツ

「はあ……………はあ……………」

マナはその場に崩れ落ちるとがっくりとうなだれた

「これに懲りたら もう勝手に入って来るなよ

次はもつと凄いからな…」

「はあ〜い」

「んで？ 何のようだ？」

「いや さっきオトメちゃんにあったんだけど 何か様子がおかしかったから……お兄様の仕業かかって思っ……」

「……そこで なぜ 俺の仕業になる……」

「……だって オトメちゃんお兄様の事……」

何かを言い掛けて黙るマナ

「？ どうした？」

「ううん 何でもない！！

それで？心当たりないの？」

「まあ 何だ……話せば長くなるけど……オトメにも裸を見られた……」

「……えっ！？ 終わり！？ ちょっと 省きすぎたよ！！」

「ふむ マナは相変わらず良い反応をしてくれるな……お兄ちゃん
は嬉しいぞ

「ご褒美にナデナデしてあげよう」

俺のポケに良いリアクション&ツッコミをいれてくれたマナを思い切り愛でる

「……あっ……／／／」

するとマナは少し照れくさそうに顔を赤らめて目を閉じる

ふむ 可愛い

「よしよし」

今度は頬も撫でてやる

「お、お兄様／＼」

次は 顎を搔いてやる

「うう／＼」

最後は首筋撫で回す

「あ……………ん……………／＼／」

「よし もういいだろう」

余は満足じゃ

「……………あ……………」

マナは少し残念そうな顔をする

相変わらず 撫でられるの好きだなお前は……………猫みたいだ
うん 可愛い

「さて……………詳しく話す前に着替えるか……………」

忘れてるかもしれないけど俺 今 上半身裸だし

……………ていうか 裸のまま マナを愛でていたのか俺は……………あつ……………今の
……………誰かに見られてたらヤバかった……………

発言……………

「……………G————…」家政婦はミタ

ギヤアアア！！！！フラグったああ！！！！

学園モノ？ファンタジー？何それ おいしいの？

デルフとセイ姉えにバッチリ見られた俺は居間に連れてこられ（裸のまま）正座をさせられていた

「全く 妹相手に何をしていたのですか？リンク」

「ナニしてました？」

ゴスツ！！！

「ぼふうっ！！！！ ちよっ！ セイ姉え 杖で殴るのはやめて！！

」！

「……………」

ドスツ！ドスツ！！ドスツ！！！！

「痛っ！！ ちよっ！！ つつかないで！！！！ ぐ、ぐめんなさい
！！ ぶざけてごめんなさい！！！！」

「……………では、何をしていたか 話してくれますね？」

「……………はい」

俺は、早朝の出来事を全てセイ姉え達に話した

「なるほど、マイには困ったものです 後できつく言っておきまし
」

「まあ それはいいとして 俺の部屋に鍵をつけて欲しいのですが……」

何故かは知らないが、俺の部屋にだけ鍵がついていない
昔は 気にしなかったけど俺だってお年頃なんだから……

「鍵……ですか……」

なぜか そこで考え込むセイ姉え
……なぜ？

「……付けるのはいいですが、リンクはすぐに勉強等を疎かにしますから……」

……ああ なるほど 信用されてないのか……

「いや、ちゃんとするって 赤点とか絶対とらないから、お願い！
！ この通り！！！！」
「……」
「……そこまで言うのなら……」
「却下です！！」

不意にデルフが割り込んできた
何だ 一体！！

「リンクく なぜ 鍵が必要なんですか？」

「あん？ それは、今後こういふ事がないように……」
「嘘だ！！！！」

「っ!？」

「リンク」 どうしてそんな嘘を吐くのかな?かな?

「なっ!？」 俺は嘘など……」

「嘘だよ!……!」

「っ!?!???」

「リンク あなたの目的は他にあるんでしょ?」

「な、ほ、他とは?」

「しらばっくれても無駄ですよ ネットはもうあがってますから……」

「だから 何が言いたいんだよ!……!」

「リンク 私 知ってるんですよ? リンクが夜中にドアを気にしながら隠しているエロ本……」

「わ……!……!……!わ……!……!……!わ……!……!……!」

「バカな……!……!……!なぜ ばれた!？」

「ふふん やっぱり そうでしたか」

「……………」
…………… じいつ まさか……………

「ええ? その、まさかです カマかけちゃいました?」

「そんな事より リンクに尋ねたいことがあるのですが……………」

「そんな事よりって……………」

また バツサリと……………」

「リンク 学園内で変な噂が流れているのをご存知ですか？」

「……………噂？」

いやな予感が……………」

「ええ あなたが管理局に目を付けられているって、いった内容のものです」

ああ それか……………やっぱり セイ姉えの所まで広がってたか……………」

『時空管理局』

多世界を取り締まる軍隊の事
学園内では、魔法警察とか呼ばれてる

「何か 心当たりでも？」

「……………ただの噂だよ……………気にする必要はない…俺 悪い事してないし」

「ええ それは分かっています……………あなたは優しい人ですから……………しかし、火のないところに煙はたちません……………噂が流れたきっかけを私は知りたいのです」

「覗きでもしました？」

「するか!!」

なに自然な流れで聞いてんだお前は!!!

「その噂の事 私知ってるよ」

「あら マイちゃん おはようございます?」

「おはよう?デルフお姉ちゃん?セイお姉ちゃん?」

「おはようございます マイ……………あなたには話がありますから
後で私の部屋に来なさい」

「えっ?話ってなに?」

「……………朝のことだ」

「朝の事って……………ええ!? お兄ちゃん 話したの!?
何で 話すの!?バカア!!!」

「だまらっしゃい!!!お前のおかげで散々な目にあっただ!
たっぷり叱られる!!!」

「……………ほとんど リンクのミスだと思いますけど…」

「うるさいぞ デルフ!!!」

「それより、マイ あなたはこの噂の元を知っているのですか?」

「うん 多分それ 学園のエースとかって呼ばれてる連中の所為だ
」

………何か トゲがある言い方だな………

「いやいや 別にあの人たちの所為じゃないだろ
問題なのは周りの連中だろ」

「………話が見えませんか マイ 詳しく話してください」

「私の事を許してくれたら話してあげる」

「あっ！！てめっ！！」

「いいでしょう」

「いいのかよ！！だったら、俺が話す！！」

「ダメだよ お兄ちゃん 素直に話さないから
私から聞いたほうがいいよ」

「おのれ！！どうにかして お説教を回避するつもりだな！！そう
はさせるか！！！！」

今日という今日は セイ姉えに叱ってもらいますからね！！！！」

「………何処のお母さんですか あなたは………」

「リンク 静かにしなさい 話が前に進まないでしょう」

「そうだよ お兄ちゃんは黙ってて」

「おいー！！ お前等 俺を邪険に扱うのも大概にしろよ！！！！」

俺の心はガラス細工ねように繊細なんだぞ!!!」

「大丈夫です ガラスはガラスでも 強化ガラスですから？」

「強化ガラスですか：だったら大丈夫ですね

マイ 話してください」

「うん 分かった」

「うわぁーん。。。p< >q。。。あんまりだぁー!!!」

学園・管理局のEース

学園のEース

高町なのは

フェイト・T・ハラOWN八神はやて

魔力保有量・魔導クラスは近・遠距離 共にSランク越えており、
幼少の頃より時空管理局に民間協力
多くの事件を解決

その功績を認められ管理局内でもEースと呼ばれ、結構な地位を与
えられている 容姿端麗、才色兼備、

そのうえ 強くて、性格も最高 学園内でも男女問わず人気がある
まさに チートキャラが実体化したかのような方々

そんな方々が何をトチ狂ったのか 成績・魔導ランク最低の俺に
朝、生徒達の目の前で話し掛けてきた 話の内容は……

「久しぶりだね リンク君」

「……………はっ？」

「9年ぶり……………くらいかな？」

「いや……………はっ？」

「ほんまやなあ あれから全然話してなかったからな」

「え〜と……………誰かと間違えてませんか？」

……………みたいな感じ……………

三人の話では……………

高町なのはとは、五歳の時に……………

フェイト、八神はやてとは、九歳の時にあっているらしい……………

……………全く覚えがない……………ていうか、昔の記憶、真堂家の養子になる前の記憶が曖昧なんだよな俺

そんな事はどうだっていい……………問題は まわりの奴等が 必要以上に騒いでる事だ

つたく ちよつと話掛けられたぐらいで ぎゃあぎゃあ うるさい

事あるごとに呼び出しを食らうし、登校、下校時に待ち伏せして
闇討ちしようとする奴もいた……………

まあ それは、真堂四姉妹のおかげで 沈静化したが……………

その後からだ、
学園内で、変な噂が流れだしたのは……………

……………まあ そんな噂の事なんか気にしないで話し掛けてくれる奴
もいるのは 救いだが……………

ていうか 元々から良い印象なんて持たれてなかったから、痛くも
かゆくもないけどね！！

……あれ、何だろう……目からしょっぱいものが……
……

学園・管理局のエース(後書き)

いじめ ダメ!!ゼツタイ!!

……逃げよう(前書き)

作者は病気

……逃げよう

「はあ 床冷てえ……」

セイ姉達に邪険に扱われ ガラスの心をコナゴナに打ち砕かれた俺は、部屋のスミスで横になっていた

「……というわけだよ……」

「……学園のEースと幼なじみですか……」

「でも、お兄ちゃんは覚えてないみたいだよ」

「……そうですか」

ん？今 セイ姉 ホツとしなかったか？……気のせいかな……

「学園の男子達が、お兄ちゃんに酷い事しようとしたのもそのせいだよ」

「……なるほど……そういう事でしたか……」

……それは、君達の所為でもある……というのは、黙っておこう

「……わかりました では、その三人には私から話しておきましょう」

「さすが セイお姉ちゃん 頼りになる？」

「ちょっと 待った！！セイ姉 何をするつもりだ！？」

O H A N A S Iとかじゃないよね!？」

「ですから、貴女達の所為で貴方が迷惑していると お話するだけです」

「いやいや 別に迷惑なんてしてないよ」

「……迷惑ではない?……」

「……お兄ちゃん それ どういうこと?」

「そりやお前 可愛い子に話掛けられるんだぞ? 最高じゃないか!」

学園での俺の評判なんて、死滅してるようなもんだし、これ以上下がることはない

やりたい放題じゃないか!

「……兄さん 鼻の下がのびてます……キモいです」

「……何か お兄さまのそね顔 やだな……」

「うお!! オトメ マナ いつの間に!」

いつからそこにいたのか オトメとマナは、廊下に立ち ジトーっ
とこちらを睨んでいた

「……あはは 実は盗み聞きしてたの ね、オトメちゃん」

「べ、別に 盗み聞きしていたわけじゃ……勝手に聞こえてきただけです……」

「ええ？ 私が二階から降りてきた時 オトメちゃん もう既に……」

「ふん！！」

ゴスッ

「いったゝ 何で打つの!？」

「ちよつと黙っててください」

「…………… 新手の漫才か？」

「違います…………… それよりも先程の話の続きですが……………」

「ああ 盗み聞きしてたって奴？」

ゴスッ！！

「違います それより前です それから、私は盗み聞きなんてしていません」

よ、横腹が！！ しょ、衝撃が内臓にまで届いた…………… い、息が、息が出来ない程痛い

「…………… はあゝ 全く どうしてこんなバカに 次々と女の子がよってくるんでしょうね」

誰がバカだ 失礼だぞ デルフ！！
つと 言いたいけど 痛みで声が出ない

「むう〜 お兄ちゃん!!」

お、おう? 何だ? いきなり

「私 頑張るから!!」

お、おう?

「だから、……いろんな私を見て!!」

う、うん………?

マイは一体何が言いたいんだろう……

「今から、色々な可愛い服とか着てくるから 感想聞かせて!!」

……… いやいやいや ちょっと待て!!

何がどうなってどういふ化学反応を起こしたらそういふ考えに行き着くんだ?

……… つと言いたいけど 痛みで声が出ない……さっきから………

「ハイハイハイハイ!! 私も私も お兄さまに見せるために可愛い服とかあるから私も参加する!!」

マナはそういいながら、元気よく手を挙げる
可愛い服』とか』って何だよ

おまえらの、将来がお兄さん心配です

「オトメちゃんも参加するよね?」

「な、何で 私まで……………」
「だって、オトメちゃんもたくさん 可愛い服とか持ってたじゃない
お兄さまに見てもらおう」

「べ、別に 兄さんに見せるために買ったわけじゃ……………」

…………… よし 痛みが引いてきた……………

「……………ふん!…」

ゴスツ!!

「ゴフツ!!! な、なぜ?」

「……………何か ム力つきました」

ひ、ひどい!! せつかく 痛みが引いてきたのに……………

「……………わかりました 私も参加します」

な、なぜ?

「決まりだね」

「当然 私達も参加します」

「ええ!? デルフお姉ちゃんとセイお姉ちゃんも!?
ていうか、いつの間に参加制になってるの!？」

全くだ……………ていうか、何の話をしてたんだっけ?

「マイちゃん 抜け駆けはなしですよ?」

抜け駆け?.....って何だ?

「むう」

「リンクに服を見てもらうなんて、中々おもしろい企画ですね」

どこが!? セイ姉は、ちょっと感性がズレてると思う っと言いたいけど、口にださないでおこう

「はい?というわけで、チキチキリンクに可愛い服を見せて誉めてもらおう大会~~~~?」

パフパフ

「もう 何が何だかわからねえー!!!!!!」

これ以上付き合ったら、いろんな意味でおかしくなる!!!!!!
俺は、横腹の痛みを我慢して 家から逃亡した

「ああ!! 逃げた!!!!!!」

「逃がしてはいけません 追いなさい」

「おまえらだけでやれ!!!」

「リンクは、私達の可愛い服とが見たくないんですか?」

だから、『とか』って何だ!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6483y/>

魔法と異能

2012年1月4日02時50分発行